

2020年10月5日

## 千葉工場に高効率なガスタービン発電設備を新設 ～年間で24万トン以上のCO<sub>2</sub>排出を削減～

住友化学は、このたび、温室効果ガス排出削減に向けた取り組みの一環として、千葉工場（千葉県市原市）の既存の石油コークス発電設備を廃止し、高効率なガスタービン発電設備（以下、「本設備」）を新設することといたしました。設備の完成は2023年秋を予定しています。

住友化学は、千葉工場で運転している火力発電設備のうち、石油コークスの使用を廃止し、CO<sub>2</sub>排出係数の低い液化天然ガス（LNG）を燃料とするガスタービン発電設備を新設します。それにより、千葉工場から排出されるCO<sub>2</sub>の約20%に相当する年間で24万トン以上を削減する計画です。また、隣接するグループ会社の広栄化学株式会社にも本設備から電力供給を行い、住友化学グループとしてさらに温室効果ガス排出削減を図ります。なお、今回の新設は、広栄化学との連携事業として、経済産業省の令和2年度「省エネルギー投資促進に向けた支援補助金（エネルギー使用合理化等事業者支援事業）」の交付が決定しています。

15年に国際的な枠組みとして採択されたパリ協定では、産業革命以前からの平均気温上昇を低く抑える「2℃目標」や「1.5℃目標」が示されており、温室効果ガスの排出削減対策は喫緊の課題となっています。そのため、住友化学は、18年2月、愛媛工場（愛媛県新居浜市）の敷地内に5社共同出資によるLNG基地建設への参画を決定しました。同基地が供給するLNGを、グループ会社である住友共同電力株式会社が22年7月に稼働予定の火力発電所で使用することで、愛媛工場のCO<sub>2</sub>排出量を削減する計画です。また、18年10月には総合化学企業として世界で初めてScience Based Targets（SBT）イニシアチブによる認定を取得するなど、温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組んでいます。

住友化学グループは、「事業活動を通じて人類社会の発展に貢献する」を経営理念に掲げ、引き続きグループを挙げて、気候変動問題をはじめとする社会課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

### ＜ガスタービン発電設備の概要＞

出力（予定）	発電45,000kW以上、蒸気80トン／h以上
建設予定地	千葉県袖ヶ浦市北袖2番1号（千葉工場内）

以上